

今回わたしは、ラファエックプロジェクトに参加している、ケア・インターナショナルジャパンの事務所を訪問し、CARE（ケア）の東ティモール事務所のプロジェクトマネージャーである **Simplicio Barbosa** さんのお話を聞いてきました。**Simplicio Barbosa** さんは2003年からラファエックプロジェクトに従事しているそうです。お話の内容は以下の通りです。

東ティモールの独立後は、暴力行為によって90%の学校が破損された影響で、教材が不足していました。また、教師が不足したため、研修を受けていない人達を教師として採用しました。これらの状態を解決する為に始められたプロジェクトがラファエックプロジェクトです。2001年にプロジェクトは始まりました。2010年に政府の方針転換によって支援が減り、プロジェクトは一時休止されましたが、2010年までの成功により様々な団体や個人の支援により、現在までプロジェクトは続いています。ラファエックはテトゥン語で書かれている雑誌です。東ティモールの多くの人々がテトゥン語を話すのにも関わらず、テトゥン語の本は少なく、ポルトガル語の本が多いので、ラファエックは人々にとって大切な情報源となっています。今ではキャラクターも増え、障害を持ったキャラクターもいます。中心のキャラクターはワニで、雑誌の題名のラファエックはテトゥン語でワニという意味です。

始めは教師指導用の1つの雑誌から始まりましたが、今では4種類の雑誌があります。未就学児用は **LAFAEK KI'IK** と呼ばれ、未就学児～小2ぐらいの子どもが使います。基本的な計算の仕方など小学校入学のための準備となるような内容が中心に載っています。中学年児童用は **LAFAEK Prima** と呼ばれ、小3、小4の子どもが使います。これは未就学児用のものに比べ、内容が高度なものになります。例えば、女性がパイロットになるお話を載せて、パイロットは男性になる職業と思い込んでいる東ティモールの女子にパイロットは女の子も目指せる職業であるということを教えています。教師用は **LAFAEK Ba Manorin** と呼ばれています。主に、指導方法、前向きなしつけ方法が載っていて、教師の経験が共有できるような雑誌になっています。大人用は **LAFAEK Ba Komunidade** と呼ばれ、約50%の家庭に普及しています。主に健康、栄養、農業、男女平等がテーマになっています。

ラファエックを作るにはまず、内容を考えます。そして話し合いをしてから試作品を作り、見直します。内容は政府に承認してもらわなければならないため、政府の教育省の人に見てもらってアドバイスをもらい、再度見直しをし、完成します。ラファエックは東ティモール出身のライターが執筆している為、地域に根ざした教育を届けることができます。

大変なことのひとつとしてラファエックの配布作業が挙げられます。バイクとトラックを

使って配布をするのですが、東ティモールの道路は日本のように整備されてはおらず、また、川や山が多いため、大変です。学校にいる子ども達に子ども用と親用のラファエックを渡すことで、確実に家庭にもラファエックが配布されます。親にも配ることで、親が知識を得ることができるだけでなく、子どもも家にいても教育を受けることができますようになります。紙ではなく、タブレットを使って配布管理をすることで、より正確な管理を実現できています。

ラファエックプロジェクトでは、雑誌の作成、配布だけでなく、コミュニティ・ダイアログというものを実施しています。これは、村民を招いて、雑誌の内容について話し合っ
て感想を聞いたり、日常生活で実践できるような教室を開くものです。ラファエックに載っているメニューの料理を作る教室や、幼児向けの栄養たっぷりの料理の調理教室などを行っています。コミュニティ・ダイアログは村民の生活の改善にとっても役立っているため、もっと広めたい活動です。

ラファエックは東ティモールにとって必要不可欠なものになりつつありますが、ラファエックプロジェクトを持続させるために改善すべきことは沢山あります。一番の問題は資金調達です。資金不足で、小5、小6用の教科書は作ることができていません。資金不足のために、安く印刷できる場所に変えたり、スポンサー契約が必要です。現在既に、女性を暴力から守る団体や、農業に関わっている団体がスポンサーとしてラファエックに出資し、ラファエックのページに広告として登場しています。ラファエックは多くの人に読まれているので、ラファエックに載ることで沢山の人の知ってもらうことができます。また、更なる認知度の向上のために、最近ではソーシャルメディアにも力を入れていて、東ティモールの若者が1番使う、Facebookのページを作ったり、ブログ、ウェブサイト、アプリも作っています。

この話を聞いて、今までブルーペコが支援していたけれど、あまり知らなかったラファエックのことをとてもよく知ることができました。これからもっとたくさんの情報を集めて東ティモールの現状を知り、ラファエックの必要性を他の人に伝えたり、どんな支援が必要なのかブルーペコで考えていきたいです。